

湯本満願寺

馬頭観音堂 天井画展

解説パンフレット

【はじめに】

このたび開催しました「馬頭観音堂天井画展」は、観音堂の天井に描かれた鳳凰（おんどり）と、116点にものぼる植物画をデジタルカメラによって撮影し、東北大学湯本分室で再現したものです。ふだんは薄暗いためにはっきりと見えなかった細かな描写や色彩が、照明を当てることによってあざやかに浮かび上がりました。この展示が、湯本の文化財の魅力を再認識するきっかけになることを期待しております。

東北大学EIMY湯本プロジェクトでは、今後も湯本魅力を多くのひとたちに再発見していただけるような調査・研究にとりくんでいきたいと思っております。



調査時のようす



116点にのぼる植物画

【いつごろ描かれたの？】

じつはまだはっきりわかっていません。絵の画風や、お堂が建てられた年代からすると、おそらく江戸時代であると思われます。

現在調査中です。

【どんな植物が描かれているの？】

野生の植物としては、野山に咲くキキョウやユリなどのほか、水田の雑草であるオモダカも描かれています。栽培植物では、さまざまな種類のキク、ケイトウなどの観賞用植物と、イネ、ササゲなどの穀物、野菜類が描かれています。いずれも湯本で身近にみられた植物たちであると思われます。しかし、よくわからないものがまだまだあります。「この花は〇〇じゃないか」といったご意見がありましたら、ぜひお聞かせください。



キキョウ



オモダカ



ケイトウ



イネ



ササゲ

【鳳凰と雷神様】



天井画の中央には、大きく鳳凰（おんどり）が描かれ、その顔はほぼ東を向いています。観音堂の上の山には雷神様がまつられています。中国の長江文明では、雷神様は天と地をつなぐ天地開びやくの神であり、おんどりの姿をしているとされています。長江文明の流れをくむ、中国雲南省の部族の間では、今でもオンドリ雷神が信仰され、そこではニワトリを飼ってはいけなく、ゴマを植えてはいけなくなど、湯本と同じような風習が残っています。

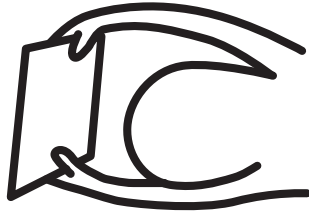
【天井画にみるむかしの湯本の暮らし】

天井画の植物は、現在でも湯本で身近にみられる草花たちでした。天井画は長い間、湯本の歴史を見守ってきたことでしょう。さまざまな植物に囲まれた暮らしは、昔もいまも共通する部分が多いのではないのでしょうか。

また、この観音堂に安置されている馬頭観音様が、美しい草花に彩られ、立派なおんどりに見守られて、湯本の人たちにとっても大切にされてきたことを物語っています。

【天井画見取り図】

展示室の入り口で、この面を持つまま見上げると、ちようど天井画と同じ向きになります。



観音堂入り口

イネ	ホオズキ	ナス	セキチク?	ナデシコ?	アザミ	キキヨウ?
ハラオモダカ	マツモトセンノウ	ヤマブドウ	エビツル	ウツボグサ	キク	ソバナ
カキツバタ	マワタウリ	ツバキ	ナデシコ?	ヒマワリ?	ヤマユリ	セキチク
ウメ	キク	ユリ	ムギ	ナンテン	モモ シユウメイギク	ミツバウツギ
ツツジ?	ユリ	テッセン	ナデシコ	ユウガオ?	キク	シヤクヤク?
オニユリ	ツバキ	フジ	ナデシコ	ユウガオ?	スイセン	モモ シユウメイギク
カエデ	ササグ	アサガオ	キク	カワラナデシコ	ヒオウギアヤメ	ザクロ
キク	ツツジ?	ヒロロ	ウメ?	シダレザクラ	キク	フシグロセンノウ
スイセン	タケ	ハチマ	セキチク?	オモダカ	アワ	ヤマユリ
			キキヨウ	カラスウリ	ヤマナシ	キク

奥